

2015年度を振り返って

国際交流センター長 數田由己子

今年度も活発に国際交流活動が行われた年になりました。その中でも長年の姉妹校であった韓国の漢陽女子大学校と、1学期間お互いに学生を送りあうセメスター留学制度が開始されたことが大きな出来事でした。今年度は3名の学生が清泉から漢陽へ、3名の学生が漢陽から清泉へ派遣されました。この制度を通して、両校の関係がますます親密になっていくことを願います。夏休み、春休みの海外研修には合計58名が参加し、台湾からも6名の留学生を2週間受け入れました。またセメスター留学として8名が海外で学びました。これらの体験から学ぶことも多く、学生も大きく成長することができました。

セメスター留学派遣

「自分の意見を持つ」という姿勢

—3カ月レポートから

人間学部2年 花村 萌佳

カリフォルニア州のアーバインで2カ月のホームステイ生活の後、1カ月間寮で生活し、LAへ引越しました。新しい仲間、先生との間で人間関係を築くために

平成27年度海外研修プログラム実績

研修先	期間	主な内容	参加人数
オーストラリア	H27 8/22 ~ 9/5	ホームステイをしながら現地語学校への通学	8名
モンゴル	H27 9/2 ~ 9/9	草原の小学校修復活動、ゲル宿泊体験、市内観光など	3名
韓国	H27 8/31 ~ 9/7	姉妹校交流、ホームステイ体験、市内観光など	10名
台湾	H27 9/3 ~ 9/11	提携校にて英語での授業体験、フィールドトリップなど	14名
ハワイ	H28 2/21 ~ 3/6	ハワイ大学にて英語での授業体験、フィールドトリップなど	10名
カンボジア	H28 2/20 ~ 2/26	孤児院でのボランティア、女性の自立を支援するNPOと地雷博物館の訪問など	13名

奮闘しています。アーバインの授業と違って、LAの先生はグループで話し合う機会を頻繁に作ります。グループの仲間と自分の考えをシェアするということが多くありました。そこで私は英語力以前に自分の意見がない、という問題にぶつかりました。他国からの留学生は、どのトピックについてもしっかりと自分の意見を持っていて、積極的に発言する姿を見て自分が情けなくなりました。



ニュースや本に関心を持ってこなかったことが、意見を持つこと、表現する力、知識を欠落させているのだと思います。今は何かトピックになりそうな先生の話などを聞いたときには、自分の意見を心のなかで答えるように努力しています。(2015年9月よりアメリカに留学中)

セメスター留学受入

忘れない!

清泉で過ごした夢のような生活

漢陽女子大学校 キム・ヘラン

2015年9月、生まれて初めて日本に来ました。大学に入学して日本語を本格的に勉強するうちに、日本に留学することは私にとっての20代のバケットリスト(Bucket Lists)に生きているうちに成し遂げたい行動や業績のリスト)であり、大学時代の宿題だと思えるようになりました。

日本人に囲まれて、専攻している日本語で会話するのが夢だった私にとって日本での生活は

夢を見ているような気持ちでした。長野に来て、清泉女学院の人々に出会って本当によかったと思います。家族から離れ、初めて訪れる国で生活するのは不安でしたが、でも、みんなが心配してくれたたり、知らない部分は親切に教えてくれたことで元気に5カ月を過ごすことができました。大変なこともあったけれど、韓国から来た私たちを家族のように受け入れてくださったこの学校での生活はとても幸せな思い出になりました。韓国に帰っても絶対に忘れません。(2015年9月~2016年2月本学へ留学)



修了証書授与式

台湾語学研修

かけがえのない仲間との出会い

国際COM科2年 長峰まいか

私はこの研修で、自分から心を開くことの大切さを学び、帰国後

も繋がっていたいと思えるかけがえのない仲間を得ることができた。私は高校生の頃に一度イギリスへ行き、ホームステイをした経験がある。そこでも現地の学校へ1週間通ったが、一緒に行った日本人とばかり行動し、英語力も乏しく積極的に現地の学生と会話することができなかった。そのせいもあってか、彼らと本音で話すことはできなかった。

今回はその反省を生かし、まず自分から心を開き、失敗してもいいから積極的にいこうと決めて学生と接することを心掛けた。そのおかげかは分からないが、短期間でも親密になれた気がする。英語力も少しは伸びたかもしれない。積極的に行動することで自分が変わることができたということも実感した。私にとって何よりの収穫である。(2015年9月台湾語学研修参加)



台湾高雄第一科技大学にて